

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：佐賀県日本語学習支援“カスタネット”

1. 事業の概要

事業名称	佐賀県在住の外国籍住民への日本語教育支援事業「サガン日本語支援モデル・プロジェクト」2018
事業の目的	散在地域である佐賀県では在住の外国籍住民への日本語教育支援が十分に行き届いていない現状がある。そこで平成30年度も以下の3つの目的で活動する。①3市で「初級日本語集中講座」を行う。②武雄市でボランティアと共に活動する「フォローアップ講座」を開講し、地域の日本語教室の継続的な活動を支援する。また、外国人児童生徒に対する日本語指導をサポートする人材を広く養成する。③昨年度に続き、佐賀県在住の外国籍住民のためのガイドブックを作成、増補する。これらの活動によって、外国籍住民が自立した生活ができるように支援する。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	佐賀県は外国籍住民の散在地域で、平成29年末現在9市2町に14の日本語教室が活動しているにすぎない。せっかく日本語教室を立ち上げたものの、外国人参加者および日本人参加者も減って、教室の存続自体が危ぶまれるケースもある。散在地域においては点在して住んでいる外国人と日本語教室を結び付ける難しさがある。市報への掲載、チラシ配布だけでは情報が届かない現状を打破するための策を考えなければならない。また、外国にルーツを持つ児童生徒が増加している現状に対して、日本語指導ができる人材が不足している。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	市町村の行政に担当部署がなく、職員や市民も外国籍住民の置かれている状況に気付いていない。故に、日本語教育の必要性の理解がなく、外国籍住民が日本語教育を受ける機会が非常に少ない。
事業内容の概要	①「初級日本語集中講座」(以下「集中講座」という)：地域の日本語教室は、ほとんどが週1回の実施であり、学習者が日本語を習得するまでに時間を多く要すること、学習者の方が会得したい日本語能力とボランティアの方々が提供できる日本語教室の内容に少し隔たりがあり、学習者の希望に応えることが難しいといった課題を解決するため、日本語教育専門家が集中的に文法を中心とした日本語教室を開講する。この教室の目的は日常的に通う地域の日本語教室で日本語学習を継続的に行うことのできるサポートをすることであるので、「集中講座」の最終日に地域のボランティア教室の方に参加してもらう発表会を行い、地域の日本語教室のスタッフと学習者の橋渡しを行う。また、地域の日本語教室で「集中講座」の内容をスムーズに引き継げるように地域の日本語教室に「集中講座」の講師が出向き、フォローアップをする「継続学習指導」を行う。 ②「フォローアップ講座」：散在地域の日本語教室は、その存在を周知する方法が難しく、学習者が集まりにくい。学習者が少ないとボランティアのモチベーションも持続しづらいといった課題を解決するため、周知活動を含めた日本語教室の活性化につながる企画を「フォローアップ講座」の参加者と共に考え、また、日本語教室の実際のやり方や運営の仕方も今講座で行い、日本語教室の充実を図る。上記「集中講座」の意義を活かすため、「集中講座」を「フォローアップ講座」開催地区で行う。また、外国籍児童生徒が増えている現状を踏まえ、今年度も外国人児童生徒に対する日本語指導をする人材を養成する。広く人材を養成するとともに、現在活動中の日本語支援員の研修も行う。 ③『ガイドブック佐賀』の作成・増補：佐賀に特化した教材がないことから、一般的な日常のガイドブックを利用したり、個々のやり方で佐賀での生活を説明するしかない現状を解決するため、28年度に佐賀県の特徴を盛り込んだガイドブックを作成し、佐賀県で暮らす外国籍住民が自立した生活ができるようにした。上記①「集中講座」及び②「フォローアップ講座」は地域の日本語教室の充実を図ることを目的として実施するもので、「集中講座」後のフォローとして、H27年度作成の『活動ブック』や『ガイドブック佐賀』を各地域の日本語教室に提供することが目的達成のために必要なことと考える。今年度は、「中学校編」の作成と「生活編」の増補を行い、地域の日本語教室で活用してもらうよう努める。
事業の実施期間	平成30年6月7日～平成31年3月20日（10か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	有瀬 尚子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”ビギナー担当
2	早瀬 郁子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”キッズ担当
3	貞松 明子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”サポーター担当
4	馬場 三佳	佐賀市国際交流協会
5	北御門 織絵	佐賀県国際課 多文化社会コーディネーター
6	宮地 美穂	佐賀県国際交流協会
7	筒井 美幸→富永 裕之	武雄市役所企画政策課
8	中川 美穂→浦郷 保之	有田町役場商工観光課
9	山口 浩	たけお日本語教室 代表
10	担当者	佐賀市教育委員会学校教育課



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年7月24日 (火) 16:00～17:30	1.5時間	佐賀商エビル	北御門織絵、宮地美穂、馬場三佳、山口浩、有瀬尚子、早瀬郁子、貞松明子	1. 平成29年度文化庁委託事業についての活動報告 2. 平成30年度文化庁委託事業についての実施計画
2	平成31年3月8日 (金) 13:00～14:30	1.5時間	佐賀商エビル	北御門織絵、平(宮地)美穂、馬場三佳、富永裕之、草津晴美(武雄市役所からオブザーバー参加)、山口浩、有瀬尚子、早瀬郁子、貞松明子	1. 平成30年度文化庁委託事業についての活動報告 2. 今後の課題

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	行政との連携：佐賀県国際課、(公財)佐賀県国際交流協会との協力により、佐賀県における外国籍住民の現状や支援の現状を把握でき、どの地区での講座開催が有効かを検討し、市町の担当職員とつないでもらうことができている。また、市町の行政担当課との連携により広報や会場使用についての便宜を図ってもらうことが可能となっている。なにより外国籍住民について今何ができるかを共に検討する機会を作れていることは大変有意義なことである。 また、子ども支援に関しても、佐賀県教委、佐賀市教委、伊万里市教委、佐賀県国際交流協会、日本語指導担当教員等と連携を取りながら、散在地域における日本語指導が必要な児童・生徒の日本語指導体制作りを行っている。 地域日本語教室スタッフとの連携：取組①の「集中講座」は地域の日本語教室への支援として企画しているものである。地域の日本語教室のボランティアの理解と協力により、日本語学習者が日本語教育を受ける機会を増やせている。取組②の「フォローアップ講座」に関しても、当団体からの提案を快く受け入れていただき、有意義な講座となるべく共に計画していく関係を作ることができている。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	中核メンバーは大学の非常勤講師として留学生への日本語教育に従事している。 取組の中の①「初級日本語集中講座」においては全体のコーディネートだけでなく指導者として1日6時間の授業を担当した。 取組②の人材養成の「フォローアップ講座」および「日本語指導支援員養成講座」では、講師及び補助者として講座を運営した。 コーディネーターとして、講座全体をコントロールして多方面にわたり日本語教室の運営の手助けをした。 取組③の『ガイドブック佐賀～中学校編～』は、小中学生がいる外国籍住民あるいは学校現場での支援として活用するため、『ガイドブック佐賀～日常生活編～』は、実際に日本語教室で使用できるように、中核メンバー及び外国人児童生徒非常勤講師が執筆を担当した。
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施 ①【活動の名称： 初級日本語集中講座in小城 】										
目的・目標	初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語教育専門家が集中的に行うことにより、学習者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習を継続させることを目的とした。									
内容の詳細	①「1日6時間×6日(＋発表会2時間)計38時間」がひとまとまりの講座を、佐賀県小城市で開講した。 ・日本語基礎文法習得(名詞文・動詞文・形容詞文・動詞活用・丁寧体・普通体などを体系的に学習するインプット中心の講座を実施した) ・日本に長く住んでいる方々のために、生活情報を盛り込んだ学習内容に変更して進めた。 ・最終日の発表会に、地域の日本語教室のボランティアを招き、継続学習のための橋渡しを行った。 ②小城市の日本語教室へ出向き、「初級日本語集中講座」を受講した学習者が、教室で継続学習できるよう助言等の学習支援を行った。									
実施期間	①平成30年12月 1日～平成30年12月24日 ②平成31年3月9日				授業時間・コマ数		①1日 6時間 × 6回 + 発表2時間 = 38時間 ②2時間×1回 = 2時間			
対象者	来日直後の外国籍住民／日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない外国籍住民、佐賀県で生活している外国籍住民				参加者		総数 12人 (受講者 9人, 指導者・支援者等 3人)			
カリキュラム案活用	日本人と結婚された方が受講したので、9「地域・社会のルール・マナーを守る 住民としての手続きをする 住民としてのマナーを守る」などを活用した。									
使用した教材・リソース	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	3						6			
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年12月1日(土) 9:00～16:00	6	ゆめぶらっ と小城	2	動詞文活用復習 社会のルール・マ ナー	動詞文の活用(て形、辞書形、ない形)の復習をした。 カリキュラム案「地域・社会のマナーを守る」、「ガイドブック佐賀」を使って「犯罪・火事」など生活に役立つ情報を学習した。		有瀬 尚子	無し	
2	平成30年12月2日(日) 9:00～16:00	6	ゆめぶらっ と小城	2	名詞文、動詞文、 形容詞文	カスタネット作成の「活動ブック」の「4. ルールとマナー」をした。 て形「～てもいいです。～てはいけません」などの文型を学習した。		早瀬 郁子	無し	
3	平成30年12月8日(土) 9:00～16:00	6	ゆめぶらっ と小城	2	動詞文活用 (普通体)	普通体を使った文型(～んです) 「ゆめぶらっと小城」で行われていた「高校生ファッションショー」を見て、簡単な作文を書いた。		早瀬 郁子	無し	
4	平成30年12月16日(日) 9:00～12:00	3	ゆめぶらっ と小城	2	動詞文活用 (普通体)	普通体を使った文型(～とき)を学習した。		貞松 明子	無し	
5	平成30年12月22日(土) 9:00～12:00	3	ゆめぶらっ と小城	7	動詞の活用 (普通体) 社会のルール・マ ナー	普通体を使った文型(名詞修飾)を学習した。 「ガイドブック佐賀」を使って「自転車の乗り方」など生活に役立つ情報を学習した。		貞松 明子	無し	
6	平成30年12月23日(日) 9:00～18:00	8	ゆめぶらっ と小城	2	動詞の活用 (普通体) 社会のルール・マ ナー	「ガイドブック佐賀」を使って「介護」など生活に役立つ情報を学習した。		有瀬 尚子 (6h)	有瀬 尚子(2h)	
7	平成30年12月24日(月) 9:00～16:00	6	ゆめぶらっ と小城	3	自動詞・他動詞 ガイドブック佐賀 ～学校編～	カスタネット作成の「活動ブック」の「13. ライトがついていますよ」を使って、自動詞・他動詞の学習をした。 「ガイドブック佐賀～学校編～」を使って、日本の小学校の情報を提供した。		貞松 明子 (3h) 有瀬 尚子 (3h)	無し	
8	平成31年3月9日(土) 10:00～12:00	2	ゆめぶらっ と小城	3	継続支援	中国人の親子、インドネシアの実習生が参加。小学生への対応の仕方をボランティアに指導。母親のいろいろな悩みを聞く。終了後は皆で話し合った。		貞松 明子	無し	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第5回 平成30年12月22日】

小城日本語教室との合同で講座を行ったので、賑やかな学習風景となった。いつもの学習者も、仲間が増えて嬉しそうにおしゃべりしていた。小城日本語教室の学習者はインドネシアからの技能実習生が多いので、職務の都合で、この日しか参加できず残念だった。彼女たちも他の日に参加できないことを残念がっていた。
「ガイドブック佐賀」を使って「自転車の乗り方」など生活に役立つ情報を学習し、発表したりした。人数も増えたが教室のボランティアもいたことで活発な講座になった。



○取組事例②

【第7回 平成30年12月24日】

受講者が日本人と結婚された中国人だったため、話すことや聞くことに関しては問題はなかったのですが、日本語文法の復習をしながら、文法の整理ができた。
生活に関する質問や疑問が多く出され、それに対応する必要性を感じ、授業内容を日本語文法だけでなく、生活情報の提供もした。日本での交通ルールや、火事への対応、介護の手続き、小学校への転入する際必要な物などの情報提供をした。



(2) 目標の達成状況・成果

受講者は日本に永住することから、日本語文法の学習だけでなく、地域社会のルールも知り、手続等のやり方を学んだ。文化庁のカリキュラム案やカスタネット作成の「ガイドブック佐賀」も活用し、受講者は在住している地域の情報を得ることができた。
受講者の児童が学校へ転入するという事で、カスタネット作成の「ガイドブック佐賀～学校編～」を使って、日本の学校について情報を提供した。「長く住んでいるが、知らないことがたくさんあった」という感想があった。
最後の発表会では日本語教室のボランティアが来られ、より具体的に地元の学校について紹介できた。

(3) 今後の改善点について

受講者は年末で仕事が繁忙期であり、すべての日程に参加することができなかった。中高年の受講者には1日6時間の講座は体力的に大変だったようで、1日の時間を短くしてほしいという要望があった。
1年に1回の不定期に開く講座でもあり、受講者も事前に仕事の休みも取れず、受けたくても計画が立てられないという不満が出た。
今後も開催できるよう、市や企業に働きかけていく。また、受講者の年齢なども考慮し、時間も含め、日程の組み方を考えていきたい。

日本語教育の実施 ②【活動の名称： 初級日本語集中講座in鳥栖 】										
目的・目標	初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語教育専門家が集中的に行うことにより、学習者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習を継続させることを目的とした。									
内容の詳細	「1日6時間×6日（＋発表会2時間）計38時間」がひとまとまりの講座を、佐賀県鳥栖市で開講した。 ・日本語基礎文法習得（名詞文・動詞文・形容詞文・動詞活用・丁寧体・普通体などを体系的に学習するインプット中心の講座を実施した） ・日本語能力試験の受験希望者には試験の概要説明と、試験対策を行った。 ・最終日の発表会に、地域の日本語教室のボランティアを招き、継続学習のための橋渡しを行った。 ・鳥栖市役所から講座の視察に来られ、「初級日本語集中講座」の必要性を認識していただけた。									
実施期間	平成31年 1月 18日～平成31年 2月23日				授業時間・コマ数		1日 6時間 × 6回 + 発表2時間 = 38時間			
対象者	来日直後の外国籍住民／日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない外国籍住民、佐賀県で生活している外国籍住民				参加者		総数 16人 （受講者 10 人、指導者・支援者等 6人）			
カリキュラム案活用	初級学習者には、カリキュラム案の中の「(31)人と付き合う」を使用した。来日間もなかったため、あいさつや自己紹介なども行った。									
受講者の出身 （ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1				2	1	1		4	
	スペイン(1)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成31年1月18日(金) 9:00～16:00	6	サンメッセ鳥栖	1	挨拶、自己紹介 名詞文、動詞文	ゼロ初級者のための学習をした。 挨拶、数字 名詞文、動詞文 語彙リストのチェック		貞松 明子	無し	
2	平成31年1月20日(日) 9:00～16:00	6	サンメッセ鳥栖	5	動詞文 て形	時計の読み方 月日、曜日 動詞の語彙確認をして、動詞文を作る よくできる受講者は動詞のて形の復習をした。		早瀬 郁子	無し	
3	平成31年1月27日(日) 9:00～18:00	8	サンメッセ鳥栖	6	動詞の活用(て形) N3問題集	て形を使った文型(～てください、～て～て、～てから)を学習した。 日本語能力試験を受講希望している人にはN3の問題集を使って説明をした。 発表会では、日本語でスピーチをし、今の仕事のことや、今後の希望などを話した。		有瀬 尚子 (6h)	有瀬 尚子(2h)	
4	平成31年2月2日(土) 9:00～16:00	6	サンメッセ鳥栖	6	動詞の活用(て形) N3問題集	て形を使った文型(～てもいいです、～てはいけません、～ています)を学習した。 日本語能力試験を受講希望している人にはN3の問題集を使って説明をした。		有瀬 尚子	無し	
5	平成31年2月16日(土) 9:00～16:00	6	サンメッセ鳥栖	9	時計、月日 動詞の活用(て形) N3問題集	ゼロ初級者は時計、月日、曜日などを指導補助者とともに学習した。 て形の復習をした後、た形、ない形を学習した。 N3は文法を中心に問題集の説明をした。		早瀬 郁子	牧崎 由美子(指導補助)	
6	平成31年2月23日(土) 9:00～16:00	6	サンメッセ鳥栖	9	ひらがな かたかな 丁寧形・普通形 N3問題集	ゼロ初級者はひらがな、かたかなの読み書き、挨拶、物の名前などを指導補助者とともに学習した。 丁寧形・普通形を学習した。 N3は文法を中心に問題集の説明をした。		貞松 明子	牧崎 由美子(指導補助)	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 平成31年1月27日】

全員技能実習生で、日本語の上達を強く希望していた。テキストに書き込んだり、わからないときは見返したりと、テキストを有効に活用して勉強していた。質問も多く、自作の文章も間違いがないかどうかチェックを依頼するなど、大変熱心だった。
日本語能力試験受験希望の実習生は、試験の受け方や内容、点数配分など知らなかったので、基本的な情報を提供した。
発表会では、日本語で作文を書き、自分らしさを出すように内容を考えて書いていた。スピーチでは今後の夢など発表し、参加した日本語教室のボランティアも感動していた。



○取組事例②

【第6回 平成31年2月23日】

受講者が9人になり、指導補助者も入り、大人数になった。教室が会議室だったこともあり、レベル別に分かれて学習するのには効率がよくなかったが、それでも和気あいあいと学習する様子が見られた。この講座で知り合った受講者同士で、おしゃべりも始まり、お互い鳥栖市の情報交換などをしていった。
「もっと日本語や日本のカルチャーを知りたい」「楽しかった(Fun)」と、アンケートには感想が書かれていた。



(2) 目標の達成状況・成果

全日程勉強した受講者は、満足いく内容で、しっかり学習できたと満足を得られたようだ。日本語能力試験受講を希望している実習生は、基本的な試験情報を得ることができた。今まで何をどうしたらいいかわからなかったのが、次回の試験に向けて自分で学習する内容が具体的にわかり、意欲が沸いたようだ。
来日したばかりのゼロ初級者には途中からの受講で、十分な日本語指導ができなかったが、ボランティア教室への橋渡しをしたことで、今後の日本語支援が得られるようになった。
鳥栖市から視察に来られ、日本語の基礎を学ぶ集中講座の開催の必要性を感じていただけた。

(3) 今後の改善点について

急な人数増加や、レベルがバラバラになったことで一人の講師では対応が困難になった。また、教室が会議室だったこともあり、レベル別に分かれて学習するのには効率がよくなかった。そのために、地元の指導補助者を急遽手配した。たまたま補助者講師の都合がついたのでよかったが、だれも見つからなかったら、効率よく日本語指導ができなかったと思われる。今後のために指導補助者のリストも作成しておくといい。

日本語教育の実施 ③【活動の名称： 初級日本語集中講座in武雄 】										
目的・目標	初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語教育専門家が集中的に行うことにより、学習者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習を継続させることを目的とした。									
内容の詳細	①「1日6時間×6日(＋発表会2時間)計38時間」がひとまとまりの講座を、佐賀県武雄市で開講した。 ・日本語基礎文法習得(名詞文・動詞文・形容詞文・動詞活用・丁寧体・普通体などを体系的に学習するインプット中心の講座を実施した) ・日本語能力試験を受けたい受講者には試験対策を行った。 ・最終日の発表会に、地域の日本語教室のボランティアを招き、継続学習のための橋渡しを行った。 ②武雄市の日本語教室へ出向き、「初級日本語集中講座」を受講した学習者が、教室で継続学習できるよう助言等の学習支援を行った。									
実施期間	①平成31年 2月 9日～平成31年 2月17日 ②平成31年 3月9日				授業時間・コマ数		①1日 6時間 × 6回 + 発表2時間 = 38時間 ②2時間×1回 = 2時間			
対象者	来日直後の外国籍住民／日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない外国籍住民、佐賀県で生活している外国籍住民				参加者		総数 20人 (受講者 7 人, 指導者・支援者等 13人)			
カリキュラム案活用	地域に長く住んでいる方もいたので、10「地域社会に参加する」、11「余暇を楽しむ」などを活用した。									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	4						2			
	インド(1)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成31年2月9日(土) 9:00～16:00	6	武雄市文化会館	2	初級文型 名詞文 中級 語彙	挨拶表現 月日 自己紹介 名詞文 中級語彙 オノマトペ		有瀬 尚子	無し	
2	平成31年2月10日(日) 9:00～16:00	6	武雄市文化会館	4	初級文型 動詞文 基本文 て形復習	動詞語彙 動詞文 助詞の整理 基本文型の確認		早瀬 郁子	早瀬 沙織(指導補助)	
3	平成31年2月11日(月) 9:00～16:00	6	武雄市文化会館	5	動詞文 て形 上級 読解	動詞文 て形 た形 ない形活用応用 自動詞 他動詞 N1 読解		早瀬 郁子	早瀬 沙織(指導補助)	
4	平成31年2月15日(金) 9:00～16:00	6	武雄市文化会館	2	初級文型 存在文、所在文 形容詞文	形容詞語彙 形容詞文 応用(好き ほしい ～たい)		貞松 明子	無し	
5	平成31年2月16日(土) 9:00～16:00	6	武雄市文化会館	5	初級文型 辞書形 た形 ない形	動詞活用 辞書形 た形 ない形 文のスタイル 丁寧体 普通体		有瀬 尚子	無し	
6	平成31年2月17日(日) 9:00～18:00	8	武雄市文化会館	4	丁寧体 普通体 発表準備 上級読解	丁寧体 普通体 日記を書く 上級N1 読解 発表スピーチ原稿		貞松 明子 (6h)	山口 浩(指導補助)(6h) 貞松 明子(2h)	
7	平成31年3月9日(土) 10:00～12:00	2	武雄市文化会館	20	継続支援	参加者で飲茶料理を作り、交流をした。 来年度の活動に向けて、大まかな日程スケジュールを決めた。		有瀬 尚子	無し	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第5回 平成31年2月16日】

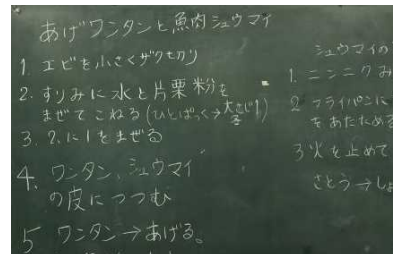
テキストに書き込んだり、わからないときは見返したりと、テキストを有効に活用して勉強していた。講師が一人体制だったので、受講者同士で日本語学習を進めていく様子が見られた。お互い答えを確認しあったり調べたりしていた。初めて会う受講者だったが、講座期間中親しくなり、受講後連絡を取り合う姿が見られた。



○取組事例②

【第7回 平成31年3月9日】

「初級日本語集中講座」受講者と、「日本語教室活性化フォローアップ講座」受講者と、既存の武雄日本語教室のメンバーとが集まり、香港の飲茶交流が行われた。自発的に日本人受講者からやろうという声が上がリ、材料の買い出し、部屋の確保などが事前に手配できていた。ワンタンの上げ具合など、外国人参加者からのアドバイスを受け、楽しく料理をすることができた。飲茶を食べながら、来年度の日本語教室の話をした。武雄市の祭りやイベントに参加したいという要望があり、何ができるかいくつか案を出して話合った。



(2) 目標の達成状況・成果

日本語初級者は日本語文法の基本(生活語彙、品詞、活用)を学習し、簡単な日常会話が理解できるようになった。上級者は日本語能力試験対策を行い、ボランティア教室では対応できない勉強を専門家による学習ができたことで、上級者も満足いく内容だった。最終日は武雄日本語教室や嬉野市のボランティアが来られ、今後は武雄日本語教室での交流活動へつなげることができた。

アンケートでは「このティーチングスタイルがよかった。」「テキストブックが役にたった。」「日本語のレベルによって教えていただいてありがたいと思っています。日本語の講座のきっかけで友達もできました。みんな自分の悩みや喜びなど交流していて、気分が明るくなりました。」などがあった。

講座が受講者のレベルに対応できていること、カスタネット作成のテキストが使いやすいという感想があったこと、また、受講者同士での交流が始まったことなど成果があった。

(3) 今後の改善点について

受講者の日本語レベルがゼロ初級から上級まで様々だったので、地元の指導補助者を急遽手配した。たまたま都合がついたのでよかったが、だれも見つからなかったら、効率よく日本語指導ができなかったと思われる。今後のために指導補助者のリストも作成しておくのがいいと思う。

外国人受講者は友達もでき、日本語教室との交流も始まったので、今後、満足が得られるような楽しい日本語教室が継続していけるよう、長期間のフォローが必要だ。

武雄市役所担当課の方が視察に来られて、日本語集中講座の必要性や日本語教室の存在意義も感じていただけたので、今後武雄市で初級日本語集中講座の開催ができるよう働きかけていく。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 ①【活動の名称:地域の日本語教室の活動を活性化するための「日本語教室活性化フォローアップ講座 in武雄」】										
目的・目標	武雄市では、ボランティアが中心になって「たけお日本語教室」を続けているが、外国籍住民の散在地域ではボランティアも学習者もなかなか増えない現状がある。また、学習者が来ても初級者等ボランティアの手に負えない現状もある。そこで、すでに「たけお日本語教室」で活動しているボランティアに教室活動を活性化させるための手立てを提案し、“カスタネット”とボランティアが共に企画・運営することで、ボランティアの増員と教室の活性化を図った。また、教室活動のいろいろなやり方を提示して、活動中のボランティア、新規参加のボランティア両方のスキルアップも図った。									
内容の詳細	まず最初に「たけお日本語教室」で活動中のボランティアに集ってもらい、新たなボランティアを獲得するための作戦を練った。“カスタネット”とボランティアと一緒に、教室の活性化の手立てとして、地域住民や学習者への周知方法を考えた。武雄市役所企画政策課が関係するイベント(武雄物産まつり)に参加して、日本語教室と養成講座の周知を図ることになり、何をするかアイデアを出し合い、当日も楽しみながら周知活動を行った。その上で、教室活動を活性化させる講座を、教室での実習を含めて6回行った。その後「初級日本語集中講座」も組み込んだ。(企画・準備等3回、イベント実施1回、入門講座2回、実習前講座2回、教室での実践2回)									
実施期間	平成30年 8月31日～平成31年 2月 2日				授業時間・コマ数	1回 2時間×7回 / 3時間×2回 / 4時間×1回				
対象者	武雄市・有田町及び近隣地域の日本語教室で活動中のボランティア・スタッフ及び周辺地域の一般市民				参加者	総数 33 人 (受講者 23 人, 指導者・支援者等 10人)				
カリキュラム案活用	カリキュラム案、教材例集の全体を第6回講座の中で紹介した。第7回講座では「医療関係」のページを配付して使い方を説明、第8回講座でそれを使って外国人協力者と対話活動をした。同様に、第9回講座で「災害関係」のページを配付して使い方を説明、第10回講座でそれを使って外国人協力者と対話活動をした。									
使用した教材・リソース	カリキュラム案「活動例集」 当団体作成教材「ガイドブック佐賀」									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										22
	イギリス(1人) 外国人協力者:インド(1人)、ドイツ(1人)、香港(2人)									
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年8月31日(金) 19:00～21:00	2	武雄市文化会館	6	日本語教室活性化企画会議①	武雄日本語教室のメンバーに今回の講座概要を説明。今後の日程やイベントの内容等意見交換した。	貞松明子	補助者:有瀬尚子		
2	平成30年9月21日(金) 19:00～21:00	2	武雄市文化会館	6	日本語教室活性化企画会議②	「武雄物産まつり」の詳細(制約等)について市役所担当者より説明を受ける。 内容・担当・準備など決める。	貞松明子	補助者:有瀬尚子		
3	平成30年11月9日(金) 19:00～21:00	2	武雄市役所	5	日本語教室活性化企画会議③	武雄市役所担当者の変更・紹介 「武雄物産まつり」当日の流れを確認する。	貞松明子	補助者:有瀬尚子		
4	平成30年11月18日(日) 9:00～13:00	4	武雄市文化会館駐車場	4	武雄日本語教室のアピールと講座告知	「武雄物産まつり」にブース参加 武雄日本語教室と講座のチラシを配布した。	貞松明子 有瀬尚子	補助者:有瀬尚子 補助者:貞松明子		
5	平成30年12月8日(土) 9:30～12:30	3	武雄市文化会館	13	日本語ボランティア入門編①	佐賀県の現状について佐賀県国際課北御門氏より話していただいた。 日本語ボランティア教室活動について。「やさしい日本語」について。	北御門織絵 貞松明子	補助者:有瀬尚子 補助者:貞松明子		
6	平成30年12月15日(土) 9:30～12:30	3	武雄市文化会館	10	日本語ボランティア入門編②	日本語の仕組みについて。 文化庁カリキュラム案の紹介。 日本語での交流について。	有瀬尚子	補助者:貞松明子		
7	平成31年1月12日(土) 10:00～12:00	2	武雄市文化会館	10	日本語教室活性化講座①	医療関係の活動の仕方を文化庁の活動例集、カスタネットのガイドブックを使用して説明する。グループで模擬活動。	貞松明子	補助者:有瀬尚子		
8	平成31年1月19日(土) 10:00～12:00	2	武雄市文化会館	7	日本語教室活動実践①	前回の資料等を使用しながら、外国人と「やさしい日本語」を使って話した。	貞松明子	補助者:早瀬郁子 外国人協力者:4名		
9	平成31年2月2日(土) 10:00～12:00	2	武雄市文化会館	10	日本語教室活性化講座②	災害関係の活動の仕方を文化庁の活動例集、カスタネットのガイドブックを使用して説明する。グループで模擬活動。	貞松明子	補助者:早瀬郁子		
10	平成31年2月2日(土) 13:00～15:00	2	武雄市文化会館	15	日本語教室活動実践②	前回の資料等を使用しながら、外国人と「やさしい日本語」を使って話した。また今後の活動について話し合った。	貞松明子	補助者:早瀬郁子 外国人協力者:2名		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第5回 平成30年12月8日】

新しく日本語ボランティアをしたい、「たけお日本語教室」で活動してみたい、という方々が主に市報や口コミで13名集まってくれた。(残念ながら1回目は来れないが2回目以降参加出来た方もいた。)3時間の講座の最初は、佐賀県国際課多文化社会コーディネーター北御門織絵氏による「佐賀県の現状」についてのお話だ。佐賀県は在住外国人の伸び率が全国1位であるということに、受講者の皆さんは驚いていた。日本語教室の重要性を知り、今後さらに増加する外国人に対応するために、後半は「やさしい日本語」のワークショップを実施した。グループで活動するうちに皆さん打ち解けていった。武雄市役所企画政策課の富永氏も参加して様子を確認してもらった。



○取組事例②

【第10回 平成31年2月2日】

この日は午前中に第9回教室活性化講座②を行い、昼食をはさんで第10回教室活動実践②を行った。午前中の講座で災害(地震、台風、火事)についてどのように外国人の方に伝えたいかを学んでもらった。いろいろ考えを練る時間はなかったが、学んだことを即実行に移すことはできた。協力者の外国人は会話には不自由していないが、災害についての知識は完全ではなく、学びも多かったようだ。外国人の方と直接一人に対応したことがない方もいたが、それぞれ会話を楽しんでいた。「楽しい」という感覚が今後の活動のモチベーションになるので、よかったと思った。土曜日なので子供連れの受講者もいたが、子供たちもグローバルな感覚を養ってほしいと思う。



(2) 目標の達成状況・成果

フォローアップ講座の目標は、活動が停滞していた「たけお日本語教室」の活性化を図ることであった。ボランティアとして今までのメンバーと共に活動しようという方々を養成できたことは成果である。また、いろいろな活動形態の紹介もしたので、これまでとは違った教室活動が出来ると思う。最終的に次の活動日を決め、その活動日には今後のスケジュールを決めたということで、カスターネットが離れても活発な活動は続きそうである。

各回実施したアンケートによると、最初は自分に日本語ボランティアが出来るのかという不安を抱えていた受講者が、回を重ねるうちに自信をつけていく様子がわかる。*Aさん「(初回)どのような活動をするのか分からずに参加したので私に何が出来るのか不安です。」「(最終回)気負わずに声をかけることから始めれば、何かお役に立つことがあると感じています。日本人、外国人と分け隔てしないようになれば一番いいと思います。」*Bさん「(初回)県内のいろいろな状況を分かり易く紹介してもらって興味深かったです。」「(最終回)元々知らない人とのおしゃべりは得意ではありませんが、時間の都合が付く限り参加しようと思っています。こういう教室があることを、知り合いにも広めたいと思います。」*Cさん「(初回)当たり前に使っている日本語も、分かり易く話すのは難しいと思いました。」「(最終回)生活の中でどうやって外国人の方と関わるか、サポートするかを学べて、とてもよかったと思います。外国人の方といろいろな話が出来て、とても楽しかったです。それが一番だと思います。」

(3) 今後の改善点について

教室を支えるメンバーのうち、上記の通りボランティアを養成することはできたが、外国人参加者の増加にはつながらなかった。実践編では、武雄市在住者だけでなく、その友だちが遠くから駆け付けてくれた。武雄市にも多くの外国人が暮らしているのはわかっているが、その方々にたどり着けないでいるもどかしさがある。メディアの利用やSNSの発信など、もう少し工夫が必要であった。

日本語教室を立ち上げる時は、皆さん活気に満ちていて楽しい活動が出来るが、年を経ると活動がマンネリ化し、参加者も固定化して教室活動が活発ではなくなる傾向がある。「カスターネット」はこれまでいくつも日本語ボランティア教室を佐賀県内各地に立ち上げてきたが、活発に活動している教室ばかりではない。立地もメンバーもいろいろな条件があるが、技能実習生が急増している今、地域の日本語教室の果たす役割は重要である。活動が停滞しているのを見ずごすわけにはいかない。文化庁のスタートアッププログラムは自治体が主体で始めるが、既存のところは民間主体のボランティア教室任せの自治体が多い。今回カスターネットが間に入ることによって自治体職員に少しは意識付けができたと思うが、今後自治体がボランティア教室を下から支える体制を築いてほしい。もっと協力体制を要請するべきだったと思う。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 ②【活動の名称:学校において外国人児童生徒に対する日本語指導をサポートする「日本語指導支援員養成講座」】

目的・目標	本研修会の目的は、学校において外国人児童生徒に対する日本語指導をサポートする日本語指導支援員を養成し、また活動中の日本語指導者の研修の場を設ける。地域の日本語教室でも外国人児童生徒の支援ができるよう広く人材を養成する。 また、研修会の目標としては、外国人児童生徒の個々に応じた日本語指導カリキュラムの作成や、DLA測定ができるように日本語指導者のスキルアップを図ることと、県内各所で活躍する指導者や支援者間の意見交換を行うことで、課題や改善策を共有し、連携を深めることである。									
内容の詳細	今年度の掲げた内容としては、外国人児童生徒の日本語力や生育環境、精神面等個々に応じた効果的な指導カリキュラムを検討することであった。 長年指導に携わっている指導者や、新しく指導者や支援者になった人など様々な対象者に、まずは、外国人児童生徒の特徴や佐賀県の現状を伝え、基本的な初期指導、教科指導の方法を学び合ったり、さらに、DLA測定の基礎知識の理解と方法を学び実践する力を身に付けること、発達障害を併せ持つ外国人児童生徒への支援方法を学ぶこと、DLA実践者からの実践報告を共有することで、今後の支援体制を検討すること、等があった。日本語支援の知識・指導技術等の実践講座の他に、日本語教育の専門家を招いて講演会を開いたり、障害児教育の専門家の話を聞くこともできた。(全5回実施)									
実施期間	平成30年 8月 28日～平成 31年 3月 6日				授業時間・コマ数		1回2時間 × 4回 + 1回3時間 × 1回 = 11時間			
対象者	現在活躍中の日本語指導担当教員及び日本語非常勤教師、子どもの日本語教育に興味を持っている一般市民				参加者		総数 38人 (受講者 32 人, 指導者・支援者等 6人)			
カリキュラム案活用										
使用した教材・リソース	子どもの日本語教育関係教材(ひろこさんのたのしいにほんご、こどものにほんご、みえこさんのにほんご、日本語学級) 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA、小学校JSL国語科の授業作り、学校教科書									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネ シア	ペルー	フィリピン	日本
	1									31

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	平成30年8月28日(水) 14:00～16:00	2	佐賀商工ビル	17	日本語初期指導と教科指導について	佐賀県の日本語指導の現状、及び日本語初期指導と教科指導について	早瀬 郁子	有瀬 尚子
2	平成30年10月24日(水) 14:00～16:00	2	佐賀商工ビル	14	指導計画、JSLカリキュラムについて、個別の指導計画外国人児童生徒の	年間指導計画の立て方、JSLカリキュラムはどのようなものか、具体的な個別の指導計画について	早瀬 郁子 日本語指導者	貞松 明子 早瀬 郁子
3	平成30年11月17日(土) 13:30～16:30	3	佐賀商工ビル	28	個々に応じた日本語指導の在り方	外国人児童生徒に対する日本語指導及び評価の実態、DLAのねらいと特徴、活用法	伊東 祐郎	早瀬 郁子・有瀬 尚子 貞松 明子・馬場 三佳
4	平成31年1月23日(水) 14:00～16:02	2	佐賀商工ビル	17	特別支援の現状から～指導計画と	発達障害の子どもの特徴と接し方、個々に応じた指導計画、指導方法、指導の実践例	黒木 里美 早瀬 郁子	早瀬 郁子 有瀬 尚子
5	平成31年3月6日(水) 14:00～16:00	2	佐賀商工ビル	12	DLAの実施報告、外国人児童生徒指導の課題	DLA測定をした先生方から実施報告を聞き、その結果から、外国人児童生徒の問題点と今後の課題を検討する	早瀬 郁子	有瀬 尚子 貞松 明子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 平成30年11月17日】

東京外国語大学の伊東祐郎先生をお招きして、る「外国人児童生徒の個々に応じた日本語指導の在り方」というテーマで講演会を開催した。外国人児童生徒のJSLカリキュラムやJSL対話型アセスメント(DLA)を開発をされた先生から直接、日本語能力把握の必要性、DLAの特徴や構造の話聞き、その意義や内容を深く理解することができた。当日は佐賀県内の日本語指導担当教員・日本語指導非常勤講師をはじめ日本語指導が必要な児童の在籍する学校長、市教委・県教委・国際交流協会等の行政、さらには県外の指導者も参加し、グループ別に具体的な指導法を検討するなど充実した時間を持つことができた。活発な質疑応答もなされた。



○取組事例②

【第4回 平成31年1月23日】

外国人児童生徒を指導している上で、日本語指導者が遭遇する可能性が高い、発達障害が疑われる児童生徒への理解を深めることは必要不可欠であるといえる。また、個々の児童生徒に応じた指導のプロでもある特別支援学校の先生のノウハウを知ることは、同じく個々に応じた指導カリキュラムを作り指導しなければならない日本語指導として重要である。

今回、発達障害の子どもの特徴と接し方、そして、個々に応じた指導計画、指導方法、指導の実践例を学んだことで、発達障害が疑われる日本語指導が必要な児童生徒の対応や指導法に有効な情報を沢山得ることができた。質疑応答とさらにはアンケート実施後の回答、それを5回目に全体に還元できたことで、理解が深まった。



(2) 目標の達成状況・成果

各研修会毎にアンケートを実施し、研修会の有効性を検証した。

その結果としては、外部講師の講演会は、「DLAの開発者の方の話聞いて、その意義を改めて知ることができ大今後の助言やアプローチの仕方に生かしていきたいです」、「日本語指導の目的について行政にも知らせる必要があると感じました」「具体的なDLAの使い方、運用の仕方等とても勉強になりました」等、珍しい機会を得ることができて大変好評であった。さらに、発達障害の講話は、「日本語指導の場合、二次障害的に発達障害と似たような行動反応が見られる子どもが多く、両面からのアプローチが必要だと感じました」「具体的なお話で理解が深まり、個々の特性なのか発達障害なのか見極めるヒントになりました」と、違った専門性のある話を聞いたことがとても役立ったという感想が多かった。また、「佐賀の日本語指導の現状を知ることができました」「初期指導と教科指導の具体的なやり方を色々知ることができました」「日本語指導者間の問題を共有することがとても役立ちました」「指導者間の連携に効果的でした」などの感想も多く、研修会がスキルアップと情報共有に有効であったことがわかった。

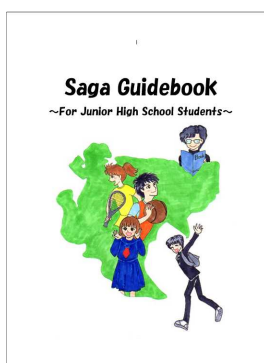
(3) 今後の改善点について

・佐賀県全域の日本語指導者が集まる研修会として、中心地であり人数が多いということで佐賀市のみで実施したが、遠方からの参加者や日程調整がつかない参加者もいて開催日、開催場所の検討が必要であると感じた。開催数にも関係してくるのだが、もっとスキルアップのための学習会や情報交換を希望している人が多いが、実際になかなか時間が取れないこともわかった。

・指導経験の少ない指導者や新規の支援者に対するフォロー講座が必要であったと感じた。

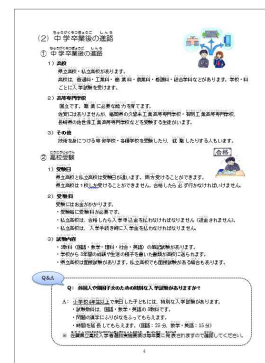
・指導者間の格差を埋めるためにも、佐賀県としての統一した初期指導カリキュラムの作成、指導方法等、決めなければならない。支援体制とともに今後の大きな課題である。

日本語教育のための学習教材の作成 【 教材の名称 : 「ガイドブック佐賀～中学校編～」日本語版&英語版 】			
目的・目標	佐賀県の中学校に通う子どもや中学校進学を控えた子どもをもつ外国籍住民が、日本の教育制度や佐賀県の学校生活を知ることと、安心して子育てができるように、佐賀に特化した教材を作成する。 一昨年、昨年作成および改訂を行った小学校版に引き続き「ガイドブック佐賀～中学校編～」を作成する。こと、さらに昨年度作成した「ガイドブック佐賀～日常生活編～」の続編を作成する。		
内容の詳細	「ガイドブック佐賀～中学校編～」は、主に教育制度や高校進学、中学校生活等、日本の学校に通うために必要な情報を掲載する。 また、佐賀県の日本語指導や学校行事等、佐賀県に住む外国籍住民に必要な内容を選んだ。		
実施期間	平成30年 8月 7日～平成31年 3月20日	作成教材の 想定授業時間	1回 2時間 × 1回 × 3 = 6時間
対象者	中学生がいる外国籍住民、また中学進学を控えた子どもがいる外国籍住民、学校関係者	教材の頁数	「ガイドブック佐賀～中学校編」日本語版46ページ 「ガイドブック佐賀～中学校編」英語版 46ページ
カリキュラム案活用			
事業終了後の教材活用	佐賀県の中学校に通う子どもや中学校進学を控えた子どもをもつ外国籍住民に配布する。 佐賀県下の外国人児童生徒のいる学校の教師及び保護者に配布する。教師は適応指導の参考資料としたり、外国人児童生徒及び保護者は日本の学校についての知識を得る資料とする。		
成果物のリンク先	https://castanetnihongo.jimdofree.com/		



目次	
このガイドブックについて	2
1. 日本の学校	3
(1) 学校制度	3
(2) 学年制と学期制	4
(3) 日本時間	5
2. 中学校の生活(佐賀市)	6
(1) 学校生活	6
(2) 学校行事	10
(3) 制服	10
(4) 学費	12
(5) 給食	13
(6) 部活動	14
(7) 通学	15
(8) 通学手段	16
(9) 通学時間	17
(10) 通学ルート	18
(11) 通学ルート	19
(12) 通学ルート	20
(13) 通学ルート	21
(14) 通学ルート	21
(15) 通学ルート	22
(16) 通学ルート	23
(17) 通学ルート	24
(18) 通学ルート	25

Table of Contents	
How to Use This Guidebook ~ Welcome to Saga ~	2
1. Schools in Japan	3
(1) Education System	3
(2) After Graduation	4
(3) Japanese Guidance	5
2. Junior High School Calendar in Saga City	6
3. School Life	10
(1) Daily Time Schedule	10
(2) School Rules	12
(3) Subjects	13
(4) Map Term - Final Exams and Grading	15
(5) Club Activities	16
(6) When Natural Disaster Occurs	17
(7) Belongings	18
(8) How Much Money is Required?	20
4. After School & Hobbies	21
(1) Going Out	21
(2) Phone to Go	21
(3) Electronic Device (Cell Phone, Personal Computer, etc.)	22
(4) Other You Have to Bring	22
(5) For Children's Safety	23
(6) Others	24
Appendix	25



日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：「ガイドブック佐賀～日常生活編～」】			
目的・目標	佐賀県に住む外国籍住民が、佐賀県での生活にスムーズに適応できるための佐賀に特化した教材を作成する。昨年度作成した「ガイドブック佐賀～日常生活編～」の続編を作成し、製本した教材を外国籍住民に配布したり、ボランティア教室等で活用したりする。		
内容の詳細	佐賀県に住む外国籍住民が、佐賀県での生活にスムーズに適応できるように、新しい生活を始めるとき様々な手続き、ご近所付き合い、出産・子育て、介護、仕事、交通ルール、冠婚葬祭、佐賀のお祭りなど、佐賀の情報を織り込みながら作成をした。		
実施期間	平成30年 8月 9日～平成31年 3月 20日	作成教材の 想定授業時間	1回 2時間 × 5回 × 5＝ 50時間
対象者	外国籍住民、「日本語教室活性化フォローアップ講座」受講生、日本語教室ボランティア	教材の頁数	「ガイドブック佐賀～日常生活編」 50ページ
カリキュラム案活用	教材例集の「Ⅷ. 社会の一員となる」等を参考にした。		
事業終了後の教材活用	外国籍住民に配布する。 県内各地の日本語教室で使用する。 市役所等の公的機関に配布する。		
成果物のリンク先	https://castanetnihongo.jimdofree.com/		



目次	
この本の使い方	2
さがマイセンの巻	3
1 楽しい生活 (総論)	4
2 ご近所づきあい	8
3 出産・子育て	10
4 介護	14
5 仕事・アルバイト	16
6 交通ルール・運転免許	22
6-1 任意講習	22
6-2 運転免許の取り方	24
6-3 日本が運転免許証への取り替え	26
7 冠婚葬祭	28
7-1 結婚式	28
7-2 葬式	30
7-3 葬式の準備	32
8 佐賀新聞の読み方	34
後カード	36



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

散在地域である佐賀県では在住の外国籍住民への日本語教育支援が十分に行き届いていない現状がある。そこで平成30年度も以下の3つの目的で活動する。

- ①昨年度に続き3市で「初級日本語集中講座」を行う。
- ②一つの市でボランティアと共に活動する「フォローアップ講座」を開講し、地域の日本語教室の継続的な活動を支援する。また、外国人児童生徒に対する日本語指導をサポートする人材を広く養成する。
- ③一昨年度・昨年度に続き、佐賀県在住の外国籍住民のためのガイドブックを作成、増補する。これらの活動によって、外国籍住民が自立した生活ができるように支援する。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- ・①に関しては、開催市の市担当者やボランティア教室との連携が密に取れたことで、受講者は、「集中講座」で文法基礎や文法体系を学ぶことができ日本語教室での継続学習がスムーズにできるようになった。
- ・②の「日本語教室活性化フォローアップ講座in武雄」に関しては、「たけお日本語教室」は、これまで学習者もボランティアも少ないことから十分な活動ができていないという現状があったが、この講座の開催により、新たなボランティア希望者を得ただけでなく、これまでの教室参加者への教室活動活性化の意識付けとなり、よい結果をもたらすことができた。
- ・②の「子ども日本語指導者研修会」は、佐賀県下で子どもの日本語指導に関わっている人たちの日本語指導のスキルアップの場となった。また、日本語指導担当教員、日本語非常勤講師、日本語ボランティア等様々な立場の人たちが情報交換をすることで、連携が取れ、日本語支援が必要な子どもたちへの共通理解が生まれた。
- ・③の「ガイドブック佐賀」は佐賀県の特徴を盛り込んだ地域性のあるガイドブックを作成することで、佐賀県で暮らす外国籍住民が自立した生活ができる支援を目指したものである。「中学校編」は長らく待たれていたもので、早速保護者へのガイダンス資料として役立った。「日常生活編」は、上記①「集中講座」及び②「フォローアップ講座」に利用し、今後も地域の日本語教室で活動の補助教材として活用してもらう予定である。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

カリキュラム案は地域の日本語教室では欠かせない内容が多く含まれているので、それぞれの活動で使用している。

- ・①では「安全を守る」「社会の一員となる」「目的地に移動する」などを使用した。
- ・②では、「医療機関で治療を受ける」を使って活動の仕方を考えたり、「安全を守る」を使って地震への対応について考えたりした。
- ・③では、「04住環境を整える」「15地域・社会のルール・マナーを守る」などを参考にして、佐賀の地域ならではの情報を加えたガイドブックを作成した。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- ・①と②は開催する場所が佐賀市以外なので、市役所の担当者と連絡を取り合い、会場の確保・市報等への掲載・チラシの配置などで協力を得ることができた。
- ・①の鳥栖市での集中講座では、市の担当者が見学に来られたり、受講者の紹介をもらった。「日本語教室へ繋ぐ」という集中講座の意義を深く理解していただき、来年度以降の開催も熱望されている。また、各講座とも各地域の日本語教室との連携により、受講者を集めたり、今後の活動に繋がる連携を図ることができた。
- ・②のフォローアップ講座では、佐賀県国際課多文化社会コーディネーターに講座の講師を担当してもらうことができた。
- ・②の子ども日本語指導者研修会では、佐賀県教育委員会、佐賀県国際交流協会等の連携を取りながら講演会を開催することができた。
- ・③では、(公財)佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、県内の日本語教室の協力も得られ、学校現場や日本語教室で活用された。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・①②では、開催市及び隣接市町の協力を得て、市報に掲載してもらった。また、チラシを関係各所に配置してもらった。
- ・②では、武雄市役所担当者の提案により「武雄物産まつり」に日本語教室のボランティアとともに参加して、教室と講座の周知を図った。これによって講座を知り、参加した方がいらした。
- ・成果の発信は主に③の『ガイドブック佐賀～中学校編～』『ガイドブック佐賀～日常生活編～』に関しては、昨年度と同様に、当会のホームページに掲載するだけでなく、(公財)佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会、佐賀県教育委員会(中学校編)のホームページに掲載してもらう予定である。
- ・冊子として印刷する『ガイドブック～中学校編～』においては、県下の外国人児童生徒の在籍する学校に配布するとともに、佐賀市市民課窓口や佐賀市教育委員会に置いて、転入外国人に配布してもらう予定である。『ガイドブック佐賀～日常生活編～』においては、県内の日本語ボランティア教室に配付予定である。

(6) 改善点、今後の課題について

- ・①と②に関して、講座の周知が難しかった。開催地域の担当者の意識・熱意の差も感じられた。今後は、メディアへの働きかけを早い時期から行うべきだと感じた。
- ・②の「子ども日本語指導者研修会」等は、行政との連携により、学校に関わる全ての人が参加できるような研修会にしたい。

今年度で「文化庁委託事業」が終了するので、今後、今年度実施した取組を、どのような形で継続することが可能であるか、大きな検討課題である。

(7) その他参考資料

- ①初級日本語集中講座(小城市・鳥栖市・武雄市)開催チラシ ※携帯番号の記載があるため、HPには掲載していません。
- ②「日本語教室活性化フォローアップ講座in武雄」開催チラシ ※携帯番号の記載があるため、HPには掲載していません。
- ③「日本語指導支援員養成講座」(全5回)開催チラシ
- ④運営委員会(全2回)次第 ※第1回目は会計に関する記載があるため、HPには掲載していません。